

Y01a 信濃における天文遊歴家朝野北水の足跡

陶山徹（長野市立博物館）

江戸時代は、西洋の科学技術が流入し、日本の天文学は大きく変わった。この時代に全国各地を歩き、人々に星を教えた男がいた。名を朝野北水という。北水自身、そして、彼が教えた内容については謎が多い。本研究では、朝野北水の信濃における足跡を調べるため、長野県内に残る北水関連の文書類と渾天儀を調査した。その結果、高遠、飯田には10点以上の北水関連の文書類があること、2つの渾天儀は北水の教えを受けて作られたものだとわかった。文書類は惑星に関するものが多く、複雑な惑星の動きをわかりやすく伝えるために工夫されていた。渾天儀は比較的簡単な作りではあるが、環ごとに色分けをしたり、天の北極の探し方を説明するための部品があったりと天体の動きをわかりやすくする工夫がされている。これらの資料には現代の天文普及に通じる北水の姿勢が見られた。